

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅医療における医療ソーシャルワークの専門性
演者名	西出 真悟
所属	オレンジホームケアクリニック

目的

オレンジホームケアクリニックは福井県福井市を拠点としている福井県初の在宅医療専門のクリニックである。当クリニックは、在宅緩和ケアや BPS アプローチを用いたトータルケアを得意としており、医療依存度の高い方のみならず、在宅における難病者の支援や、重度心身障害児・者も積極的に受け入れている。また、訪問診療だけでなく 10 年後、20 年後の地域を見据え、まちづくりや医学生教育、多職種連携実践研修などにも力を入れている。医療ソーシャルワーカーは3名在籍しており、新規の受け入れから、ケア継続における調整、制度の利用・サポート、多職種との情報共有、家族ケア、グリーフケアに至るまで、クリニック内外の連携における中心的な存在として活動している。在宅医療における医療ソーシャルワークについて考える。

実践内容

在宅医療専門クリニックにおける医療ソーシャルワーカーの実践活動を事例やデータを使って紹介していく。

実践効果

訪問診療における連携はもちろんのこと、多職種との連携やまちづくりまで多岐にわたる分野で社会福祉のプロフェッショナリズムを発揮できることが分かった。メゾ、ミクロ、マクロの視点で物事を捉え、長期的かつ広域的な活動、連携が見て取れた。

考察

今後、我が国は世界でも例がないほどの超高齢社会・多死時代を迎えることになる。また、患者の **HAPPY** や社会情勢を加味すると、これまで以上に多様なニーズに応える必要があり、柔軟かつ多彩なプランニングが必要である。その際、スムーズな連携や地域包括ケアの実現を考えると、病院の医療ソーシャルワーカーと在宅の医療ソーシャルワーカーとの連携は欠かせないものになるはずである。